

# 行政視察報告書

平成 28 年 10 月 7 日

貝塚市議会議長 中山 敏数 殿

自由市民 食野 雅由  
田畑 庄司  
田中 学  
副議長 真利 一朗

## [調査目的及び、訪問市]

第 1 日 平成 28 年 10 月 3 日 「セレブリティ・ミレニアム」乗船客  
帰船状況について 京都府舞鶴市

第 2 日 平成 28 年 10 月 4 日 「飛鳥Ⅱ」寄港歓迎式典出席・船内視察  
京都府舞鶴市

第 1 日 (平成 28 年 10 月 3 日) 「セレブリティ・ミレニアム」乗船客帰船状況に  
ついて [京都府舞鶴市]

平成 28 年 8 月 29 日に堺市で開催された「第 2 回堺泉州地域におけるクルーズ船誘致に  
関する連絡会議」において、地元選出の自民党衆議院議員（岡下昌平、神谷昇、谷川とむ  
各代議士）、国土交通省近畿地方整備局港湾空港部長、大阪府港湾局及び泉州 9 市 4 町の担  
当者出席のもと、その取組みについて情報及び意見の交換をしました。貝塚市の阪南港新  
貝塚第 3 号岸壁は、堺泉北港大浜第 5 号岸壁、助松第 9 号岸壁と共に大型船の停泊が可能  
な岸壁で、その利点を生かし積極的に誘致に取り組まなければならないと思いました。意

見交換の中で先進地である京都府舞鶴市のみなと振興・国際交流課主幹兼みなと振興・クルーズ船誘致担当係長の中井哲也氏に、クルーズ船が寄港する時に是非視察に伺いたいと申し出たところ、快く受けて頂きこの視察を計画しました。

当日、「セレブリティ・ミレニアム」の舞鶴入港は悪天候のためキャンセルになったと午前7時ごろに中井氏から連絡が入ったので、舞鶴港の周辺施設の見学と誘致に向けて取り組まれてきたノウハウをレクチャーしてもらうことになりました。午後2時に舞鶴西港第2埠頭に到着し、中井氏と2カ月ぶりの再会を果たしました。本来であれば、岸壁にクルーズ船「セレブリティ・ミレニアム」号が着岸しているはずでしたが叶わぬ夢と散りました。舞鶴港は地形に恵まれた天然の良港で、海はとても凪いでおり、その上干満の差が少ない好条件の港だそうです。この第2埠頭は湾の最深部に位置しており市街地にとっても近く、徒歩での散策やショッピングが可能です。しかしながら、喫水は-9.5m で大きい船が入港するときは少し離れた喫水-14m の国際埠頭に着岸するそうです。



第2埠頭

クルーズターミナル

中井氏から説明を受ける

又、岸壁の向かいにあるクルーズターミナルでは外国船の出入国検査などが行われるそうです。当然この施設は京都府の管理であり、貝塚市においても大阪府の協力が絶対条件であると感じました。

次に、ターミナル内で中井氏による説明を受けました。舞鶴は、平成23年11月に国土交通省において、経済成長著しい対岸諸国と地理的に近接する日本海側港湾において伸ばすべき機能の選択と施策の集中及び港湾間の連携を通じて対岸諸国の経済発展を日本の成長に取り入れるべく計画された**日本海側拠点港**に指定され、本格的にクルーズ船誘致に取り組まれたそうです。そして入港実績は、平成23年4隻、平成24年3隻、平成25年から外国船を含む7隻、平成26年14隻、平成27年8隻、今年は17隻とその成果を着実に上げられています。その上、来年は40隻を超える高い目標を掲げられています。又、経済効果は、最小定員264人の船で、直接効果約650万円、間接効果約1,200万円、最大定員3,114人の船で、直接効果約2,800万円、間接効果約4,700万円と試算されています。このように大きなメリットがある事業は、市を挙げて取り組むべ

きと感じました。

続いて、これからの課題についての説明がありました。まず、貨物船・フェリー等との入港調整の問題で、毎週金～土曜日の日韓露国際フェリーとの調整、中国・韓国向け定期航路との調整があり、これらは早いもの勝ちで岸壁予約されていて、入港したい時刻に入港できるかがリスクとしてあるそうです。次に、国際埠頭における受入設備の整備です。コンテナ埠頭のため、ターミナルなどの設備が無く、仮設に費用と時間がかかり、道が一本のためバスやタクシーで渋滞が発生して、市内まで影響があるそうです。次に、観光バス・タクシーの不足とシャトルバスの有料化です。最大のメガシップが寄港すれば近隣の事業者では対応できないので、京都市内から手配しているとの事でした。現在無料のシャトルバスの有料化を検討中で、それには路線バス認定申請等が必要であるとの事でした。質疑応答と意見交換をして視察第1日が終了しました。

## 第2日 (平成28年10月4日)「飛鳥Ⅱ」寄港歓迎式典出席・船内視察 [京都府舞鶴市]

午後1時に現地に着くとすでに「飛鳥Ⅱ」は着岸されていました。まず驚いたのはその大きさと、まさにホテルが浮かんでいるようで壮観でした。埠頭には、式典の準備がされていて、地元の幼稚園児が「ようこそ舞鶴へ」と大きな声で叫びながらドラムとダンスで乗船客に歓迎ムードをより一層盛り上げていました。まち挙げての取組みであることがよく解りました。



我々も来賓席に案内され、式典が始まりました。最初に「飛鳥Ⅱ」の船長、機関長、ホテルマネージャーに幼稚園児から花束贈呈があり、続いて舞鶴市副市長 堤 茂氏から歓迎の挨拶がありました。次に、船長から御礼のスピーチがあり、主要な来賓紹介の後、記念品の交換がありました。これで式典は終了で、とてもコンパクトであると感じました。



続いて、船内に入りました。船内は 12 階建てのビルと同じで、1 階から 4 階までが機関室や乗組員のデッキで 5 階から 12 階までが客室やレストラン、ショップ、娯楽施設でした。先ず 11 階のラウンジに案内され、ソフトドリンクのサービスを頂きました。そして 12 階から順に案内を受けました。12 階には、テニスコート、プールなどがありました。



続いて、ショップ、シアター、ダンスホール、娯楽施設、レストランを視察しました。どれを見ても超一流でまさに海に浮かぶ高級ホテルであると思いました。こんなクルーズ船が貝塚市に来れば、思いもよらぬ大きな経済効果が期待できると感じました。それには港湾管理者である大阪府の協力なしではできないと考えます。これからのクルーズ船誘致に向けた取組みを推進したいと思います。

最後に、今回の視察にご協力頂いた舞鶴市みなと振興・国際交流課の中井哲也氏に感謝をし、報告と致します。